

平成 29 年度 研究成果報告書
Research Achievement Report FY2017

講座名・職名 Course Title・Job Title	アジア II 講座 特任准教授
氏名 Name	テッテッ
専門分野 Academic Field	言語学

主たる研究テーマ Principal Research Subject	ビルマ語と日本語における身体語彙を含む表現の対照研究
<p>ビルマ語と日本語の身体語彙を含む慣用句について研究を行った。日本語の慣用句をインターネットから抽出し、ビルマ語の慣用句を日常生活でよく使われている言い回しから収集する方法で調査を進めた。</p> <p>毎週意味論に関する授業を開講し、ビルマ語における身体語彙を含む慣用句を教えていた。両言語の慣用句に見られる動詞の違いなどから、ビルマ語の認知的なアプローチ、ビルマ社会における人々のものの見方に関する基礎知識などを日本人学生に身につけさせた。具体例を挙げれば、ビルマ語の <i>mye?hnà cí dè</i> (直訳：顔が大きい) と日本語の「顔が広い」というそれぞれの慣用句において、ビルマ語では「大きい」という動詞、日本語では「広い」という動詞が使われている問題、あるいはビルマ語には <i>mye?hnà nè dè</i> (直訳：顔が若い、顔が小さい) という慣用句があるが、日本語ではそのような言い回し自体が存在しないという問題について、学生がどのように考えているのか教師側が問いかけ、互いに内省しながら議論を深めていくことで、ビルマ語と日本語双方の慣用句を、通言語的な観点および文化比較という観点から考察できたと思う。この研究活動の内容は、学生達が主体的に考えていこうとする力を伸ばすだけでなく、言語分析能力をも高めることができる点で、言語教育分野において有益なものと考えている。</p>	